

# ペヤンヌマキ×安藤玉恵 生誕40周年記念ブス会 リーディング『男女逆転版・痴人の愛』

主催 ブス会  
日程 平成29年7月15日(土)・7月16日(日) 全5公演  
会場 ギャラリースペースしあん(台東区東上野1-3-2)

「ブス会」は、劇作家であるペヤンヌマキが舞台作品を上演する為に立ち上げたユニットで、境界線に立たされた女性たちの悲喜こもごもから、現代日本に生きる女性のリアルをあぶりだしつつ、時には『したたか』に、時には『しなやか』に逞しく生きる女性の姿をシニカルさと優しさが共存する観察眼で描いた作品を発表しています。

今回は、劇作家ペヤンヌマキの新しい挑戦として、1924年の発表から約100年の時を超えて読まれ続けている不朽の名作、谷崎潤一郎の長編小説である『痴人の愛』を現代に置き換え男女設定逆転して描くブス会版『痴人の愛』を披露しました。

会場は、築60年の民家を改造して活用している「ギャラリースペースしあん」です。作中の主人公2人が暮らしていたような雰囲気がある風情豊かな小さな古民家のため、定員30名という小規模の公演ですが、間近で繰り広げられる役者の演技の迫力は、大劇場では体験できない空間でした。



(←) 谷崎潤一郎の名作『痴人の愛』では、「男性」である譲治が「女性」であるナオミに翻弄される話ですが、100年の時を超え、女性も男性と同等に勤労するようになった時代から、「女性」が「美少年」に翻弄されるという逆転の発想が非常に現代的であると考え、男女を逆転した内容にしました。この『男女逆転版・痴人の愛』をイメージしたイラストを、画家のCato Friendさんに描いていただきました。

ブス会版『痴人の愛』のため、美少年ナオミに翻弄される主人公“私”役に台東区在住で、現在舞台・映像にと活躍をしている女優の「安藤玉恵」、美少年“ナオミ”役には、劇団唐組の若手ホープ「福本雄樹」、ナオミの友人“浜田”役には、近年舞台のみならず映像での活躍もめまぐるしい「山岸門人」という個性豊かなキャストが集結しました。



(→)安藤さんと福本さん

本公演は、12月に劇場で実施する本公演に先駆けたリーディング公演です。  
朗読とチェロによる生演奏といったシンプルな構成ですが、玄関から舞台である部屋に入る・縁側や庭を使うといった古民家という空間を最大限に活用した演出により、美しく官能的な作品の世界観をより一層深めていました。

(※以下の6枚は、ゲネプロ時の写真。)



2日間、全5回のリーディング公演は、盛況のうちに終了しました。

今後は、12月に実施する劇場での本公演のほか、地方公演や本作の映画化・小説化等、様々な展開を企画していく予定です。